令和５年３月２５日（土）
太宰府市教育委員会　文化財課

丘陵地に広がる生産遺跡

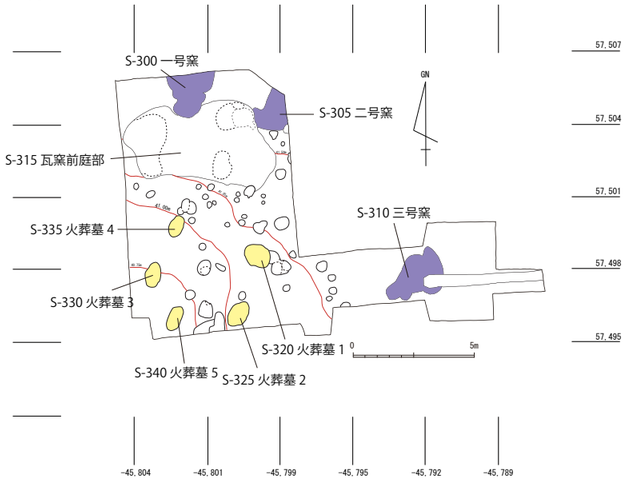
小正府遺跡第１次調査　現地説明会資料

遺跡の概要

小正府遺跡は、四王寺山の南側に連なる丘陵上に位置しています。南側では令和４年に実施した大宰府条坊跡 346 次調査で、水城小学校付近に古代の役所が展開していることが判明しました。北側には筑前国分寺 (国史跡) が位置し、一帯に筑前国分寺に関連する遺跡が広がっています。また、調査地より北西側では、御笠団印 (国重要文化財) が出土しています。

今回調査した小正府遺跡では、奈良・平安時代の柵列や瓦窯などを中心に、縄文時代～鎌倉時代までの遺構が見つかりました。

西区



瓦窯（S-305）から瓦が出土した状況（西から）

火葬を行った焼土坑
左：S-340 お皿が重なっている状況（北から）
右：S-335　刀子の出土した状況（東から）

出土した瓦類（右上：「筑」銘文字瓦
左上：「天延三年七月七日」銘文字瓦
下：軒丸瓦）

西側の調査では、10 世紀後半に使用された瓦窯と、鎌倉時代の火葬を行った焼土坑が見つかりました。

瓦窯は三基並んだ見つかっており、二号窯 (S-305) の中からは、「天延」という文字の入った瓦が見つかり、三号窯 (S-310) からは、屋根の軒先に葺かれる軒瓦が出土しています。「天延」銘の瓦は、類例から「天延三年七月七日」(天延三年＝975 年) と入っていたと考えられます。

焼土坑は五基見つかっています。焼土坑 (S-335) の中からは、刀子 (小刃) が出土しています。また、S-340 からは鎌倉時代のお皿が重なった状態で見つかりました。

南区

南区東側丘陵で見つかった建物跡と柵列　（上が北）

南側の調査では、丘陵の傾斜に直交する状態で溝が見つかりました。溝は V 字状に切り込まれており、床面は段状に作られていることから道路状遺構の可能性が考えられます。

また南区東側では、斜面中腹には東西方向に並ぶ柵列が見つかりました。また２間×３間の掘立柱建物も見つかっています。どちらも遺物はほとんどありませんでしたが、奈良時代～平安時代に作られたものだと考えられます。

南区で見つかった V 字に切り込まれた溝（北から）

東区

東区では、須恵器の大蓋と大坏がセットになって埋められている状況が見つかっています。誕生した子の健康や出世を祈る胞衣壺 (胎盤をいれたもの) のようなものであると考えています。

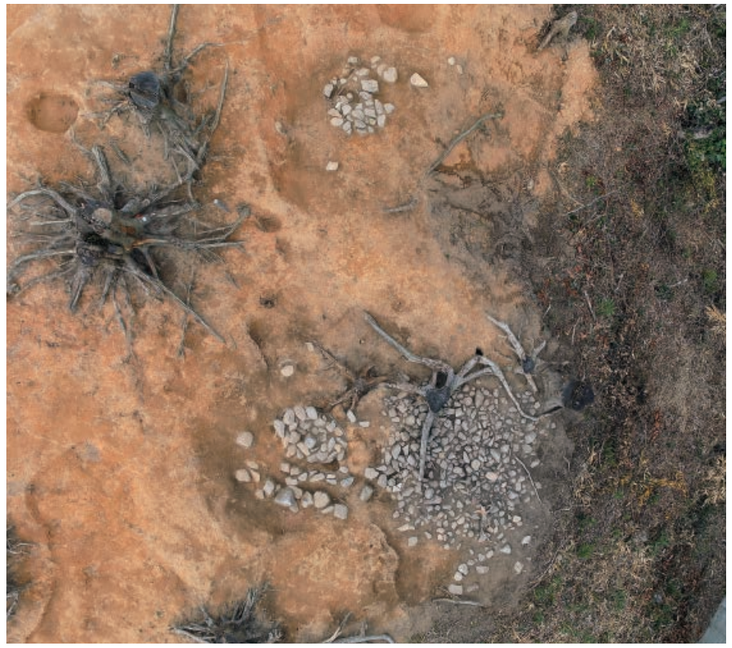
また、東側では住居が見つかっており、東側の溝状のくぼみから、土器がまとまって出土しています。出土した土器から、7 世紀後半のものだと考えられます。屋内で鍛冶をした跡がありました。

胞衣壺？の出土状況（南から）

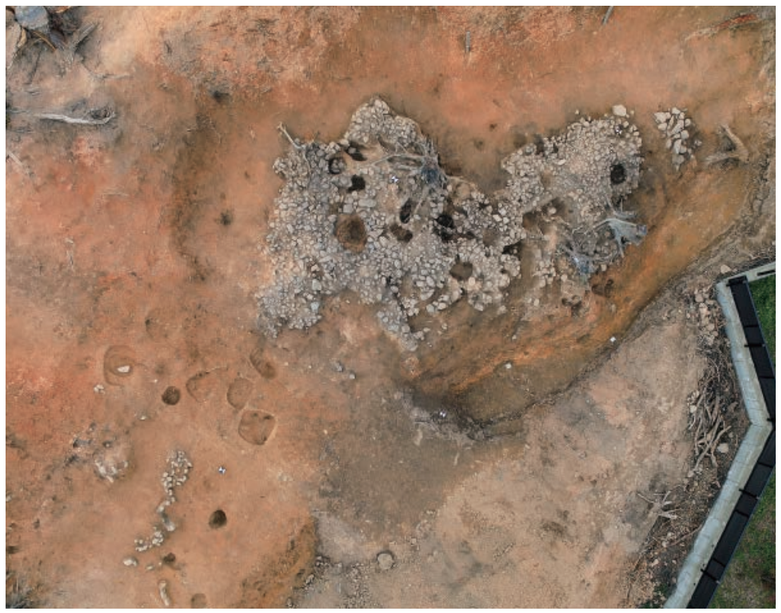
東区で見つかった住居跡（南西から）

北区

北側の調査では、石を集めている鎌倉時代の集石遺構（しゅうせきいこう）が見つかりました。丘陵の上と下の二ヵ所に分かれて石が集められていました。類例から埋葬施設であった可能性があります。

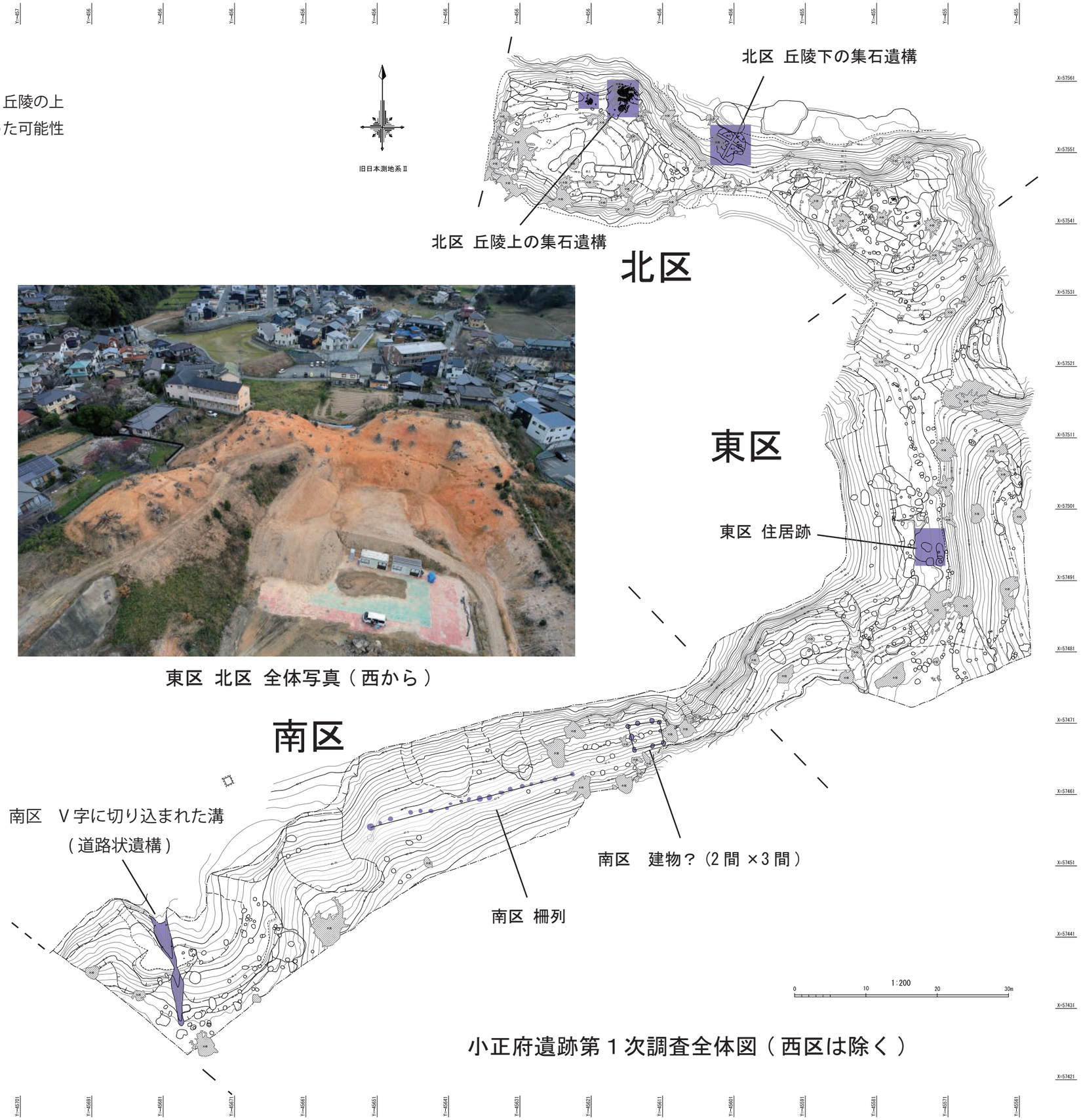


丘陵の上の集石遺構（上が西）



丘陵の下の集石遺構（上が西）

東区　北区　全体写真（西から）



小正府遺跡第１次調査全体図（西区は除く）